

新潟県下水道公社 業務案内

水の再生
豊かな暮らしの架け橋

私たちは環境にやさしい水をつくりつづけています

新潟浄化センター放流口から阿賀野川を望む

新潟県下水道公社とは

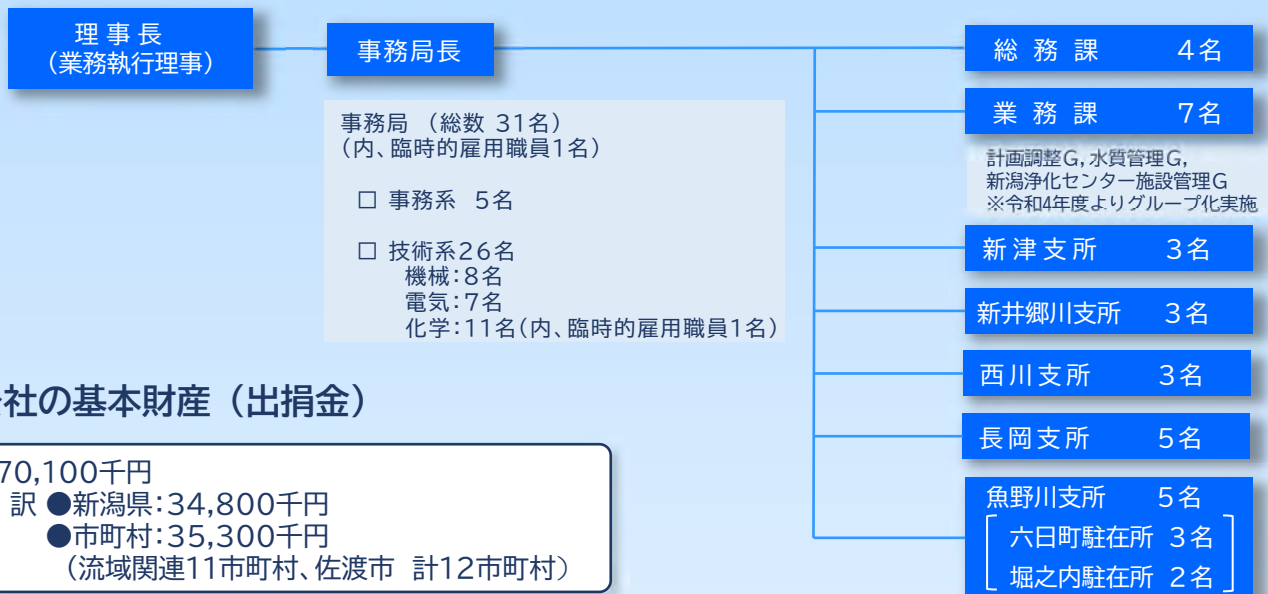
新潟県下水道公社は、流域及び公共下水道等の維持管理をはじめ、下水道に関する調査・研究、下水道知識の普及・啓発及び下水道排水設備工事責任技術者の認定・登録を行うことにより、県民の健康的で快適な居住環境の向上及び公共用水域の水質の保全に寄与し、もって公衆衛生の向上及び自然環境の保全・循環型社会の形成に資することを目的に設置された公益財団法人です。

○公社の事業

- | | |
|-------------------------------|---------------------------|
| (1) 流域下水道及び公共下水道等の維持管理 | (4) 下水道技術者の育成 |
| (2) 地方公共団体の実施する下水道事業に対する協力・支援 | (5) 県民に対する下水道知識の普及・啓発 |
| (3) 下水道処理技術等に関する調査・研究 | (6) 下水道排水設備工事責任技術者の認定、登録 |
| | (7) その他公社の目的を達成するために必要な事業 |

○組織図

◇評議員 6名 ◇理事 6名 (内、常勤理事1名) ◇監事 2名



○公社の基本財産（出捐金）

■70,100千円
 内訳 ●新潟県:34,800千円
 ●市町村:35,300千円
 (流域関連11市町村、佐渡市 計12市町村)

○運営方針

下水道公社のミッション | 使命

- 下水道公社は、県民の皆さんの生活に必要な不可欠な基幹の公共施設である下水道を万全に維持させるため、次のミッションに積極的に取り組みます。
- ① 適正な水質管理 ② 汚泥の円滑・適正な処理 ③ 維持管理業務の効率的執行 ④ 専門技術者の育成・確保

職員の意欲と成長を促し、ミッションの共有と実践を図るための 行動目標

取組姿勢	➢ 下水道技術の向上に努め、業務の正確性を確保しつつ効率化に取り組めます。	実践取組事項	① 技術力の向上	・・・ 高度な専門技術の会得と専門資格の取得
	➢ 地球環境こやさしく下水道の果たすべき役割について情報発信します。		② 維持管理費の削減	・・・ 処理単価削減への弛まざる追求
	➢ 「今後、我々は何を為すべきなのか」を常に考えて行動します。		③ 積極的な情報発信	・・・ 県民や市町村に対する下水道に関する啓発活動
			④ 公共用水域の良好な保全	・・・ 法定基準を大幅に満たした水質を保ち続けます
			⑤ 危機管理対応能力の向上	・・・ 県・市町村と連携し、危機管理体制の充実
			⑥ 良好な職場環境の構築	・・・ お互いを尊重する職場環境の実現
			⑦ 県内の下水道事業を支援	・・・ 蓄積した維持管理技術を県内下水道事業で活用

公社では「運営方針」を定め、公社のミッション(使命)を職員で共有し、業務において職員自ら実践を図っています。また、持続可能な社会実現に向けてSDGsに賛同し積極的に取り組んでいます

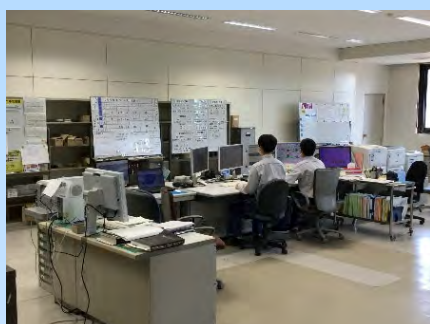


主な業務のご紹介

● 流域下水道浄化センター・汚泥処理施設等の運転監視・保守業務

新潟県の流域下水道施設に流入する家庭・事業所等からの汚水量は、年間約8千万立方メートル(7処理区※合計)、日平均約22万立方メートルになります。この汚水処理及び施設管理を新潟処理区は本社が、他処理区は各々設置した支所が24時間体制で行い、基準値以下の処理水として河川に放流しています。また、汚水処理の過程で発生する汚泥は、脱水汚泥や乾燥汚泥として搬出され、最終的に「セメント原料」や「コンポスト(肥料)」として再利用されています。

(※注) 4流域7処理区 ○ 信濃川下流域下水道 新潟、新津、長岡処理区 ○ 魚野川流域下水道 六日町、堀之内処理区
○ 阿賀野川流域下水道 新井郷川処理区 ○ 西川流域下水道 西川処理区



中央監視室



水質検査(処理水採水)



設備の修繕



汚泥消化槽

汚泥処理の過程で発生する消化ガスは、消化ガス発電設備で発電に利用し、場内電力として使用しています。場内使用電力の約20%から50%を賄っています。



消化ガス発電設備

○ 公共下水道等運転管理受託

新津浄化センター、六日町浄化センターの敷地内に設置されている「し尿受入施設」については、新潟市、南魚沼市から運転管理業務を受託しています。

● 調査研究事業

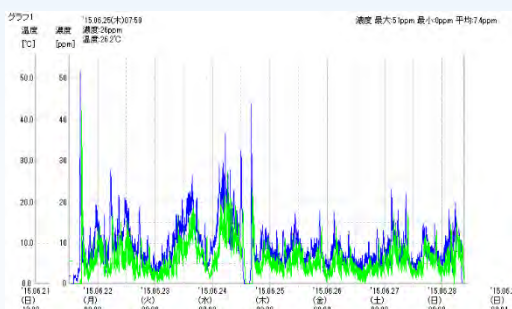
各処理区の運転維持管理状況を踏まえ、業務の改善や維持管理経費の削減等について、テーマを定め、調査・研究に取り組んでいます。



マンホール腐食状況調査



硫化水素測定器(写真上)と測定結果(右図)



(例) 下水道管渠・マンホール腐食の原因となる硫化水素濃度の調査を行い、劣化予測や更新時の優先度決定などに役立っています。

■ 地方公共団体が実施する下水道事業に対する協力・支援

□ 下水道排水設備工事責任技術者認定・登録

排水設備工事責任技術者の認定及び登録は各市町村において行っていましたが、下水道事業の拡大に伴う各市町村の事務の省力化及び技術の平準化を図るため、平成6年度から公社で当該事業を行っています。



登録更新講習会の様子

□ 下水道技術者の育成

近年、市町村における組織や人員の合理化が進み、下水道部門の専門職員や経験豊富な職員の減少化が課題となっています。

このため、公社職員が講師となり、市町村の下水道担当者、特に比較的経験年数の少ない職員を対象に講習会を開催し、専門職員の技術力の底上げと向上を図ることで、市町村における下水道行政を支援しています。



維持管理技術講習会の様子



現場実習（汚水ポンプ点検）

□ 下水道維持管理技術相談【下水道よろず相談室】

公社の蓄積した維持管理技術を、県内自治体の下水道管理に役立ててもらうため、市町村下水道担当者からの技術相談を受け付けています。

汚水処理、汚泥処分方法や、設備の運転、資機材・薬品調達など、維持管理における疑問・質問に公社がお応えします。

本社業務課並びに近隣の支所で相談を受け付けています。

（公社HP http://www.niigata-gesuikou.or.jp/yorozu_soudan からも受け付けています。）

◆ 県民に対する下水道知識の普及・啓発

小学校、地域の方などに下水道や公社の役割などを広くPRするため、見学者を積極的に受け入れるほか、小学校における社会科授業の一環として施設見学や、学校に出向く出前授業、リモート見学会なども行っています。

◇ 施設見学



下水処理のしくみ説明



反応タンク



管廊



最終沈殿池

◇ 出前授業



新潟市内小学校の様子

◇ わくわくフェスタの開催

「9月10日下水道の日」にちなみ浄化センター周辺地域住民の皆様に向けたイベントとして、公益財団法人となった平成24年度から開催し、下水道教室、下水道探検ツアーやステージショーなどを実施しています。また、関連企業・団体からは、PRブースなど出展協賛をしてもらっています。

令和元年度 わくわくフェスタ（長岡浄化センター）



出展ブース



下水処理微生物観察



ステージショー



下水道探検ツアー

● 公社が維持管理する浄化センター等

各浄化センターには支所を設置し、公社職員(化学,機械,電気の3職種)が常駐し、受託協力会社と共に24時間の運転管理を行っています。また、本社業務課(新潟浄化センター)は下越地区、長岡支所(長岡浄化センター)は中越地区の水質分析拠点として、化学職職員を複数配置しています。

信濃川下流流域下水道

○新潟浄化センター 新潟処理区



施設概要(R5.3.31現在)
 関係市町村:新潟市
 計画処理区域人口:175,330人 水洗化人口(下水道接続):177,770人
 全体計画処理能力:94,600 m³/日 現在処理能力(晴天時):86,400m³/日
 下水排除方式:分流(一部合流)式
 処理方式:標準活性汚泥法 幹線管渠延長:12.8km

○新津浄化センター 新津処理区



施設概要(R5.3.31現在)
 関係市町村:新潟市,五泉市
 計画処理区域人口:93,935人 水洗化人口(下水道接続):87,993人
 全体計画処理能力:44,300 m³/日 現在処理能力(晴天時):37,500m³/日
 下水排除方式:分流式
 処理方式:標準活性汚泥法 幹線管渠延長:23.1km

○長岡浄化センター 長岡処理区



施設概要(R5.3.31現在)
 関係市町村:長岡市,小千谷市
 計画処理区域人口:106,600人 水洗化人口(下水道接続):111,752人
 全体計画処理能力:61,920 m³/日 現在処理能力(晴天時):61,920m³/日
 下水排除方式:分流式 処理方式:標準活性汚泥法 幹線管渠延長:48.8km

新潟市新津地区し尿受入施設(受託管理)

中越流泥処理センター



処理能力:70トン/日(脱水ケーキ換算)
 長岡浄化センターで発生する汚泥のほか、中越地域(長岡市、三条市、加茂市)の公共下水道汚泥も受入、乾燥・減量化処理をしています。



阿賀野川流域下水道

○新井郷川浄化センター 新井郷川処理区



施設概要(R5.3.31現在)
 関係市町村:新潟市,新発田市,阿賀野市,聖籠町
 計画処理区域人口:158,607人 水洗化人口(下水道接続):116,904人
 全体計画処理能力:84,700m³/日 現在処理能力(晴天時):53,350m³/日
 下水排除方式:分流式 処理方式:標準活性汚泥法 幹線管渠延長:68.7km

西川流域下水道

○西川浄化センター 西川処理区



施設概要(R5.3.31現在)
 関係市町村:新潟市,燕市,弥彦村
 計画処理区域人口:112,540人 水洗化人口(下水道接続):80,873人
 全体計画処理能力:59,000 m³/日 現在処理能力(晴天時):36,000m³/日
 下水排除方式:分流式 処理方式:標準活性汚泥法 幹線管渠延長:77.0km

魚野川流域下水道

○六日町浄化センター

六日町処理区



施設概要(R5.3.31現在)
 関係市町村:南魚沼市
 計画処理区域人口:37,720人 水洗化人口(下水道接続):34,390人
 全体計画処理能力:25,600 m³/日 現在処理能力(晴天時):15,360m³/日
 下水排除方式:分流式 処理方式:標準活性汚泥法 幹線管渠延長:20.4km

○堀之内浄化センター

堀之内処理区



施設概要(R5.3.31現在)
 関係市町村:魚沼市
 計画処理区域人口:22,347人 水洗化人口(下水道接続):24,777人
 全体計画処理能力:12,140 m³/日 現在処理能力(晴天時):13,370m³/日
 下水排除方式:分流式 処理方式:標準活性汚泥法 幹線管渠延長:16.7km

南魚沼市し尿受入施設 (受託管理)



●ポンプ場の維持管理

流域下水道幹線には、各処理区の地形条件等により、多くのポンプ場が設置されています。公社では浄化センターの管理と合わせポンプ場の点検・管理をしています。

(中継ポンプ場28施設、マンホールポンプ11箇所)

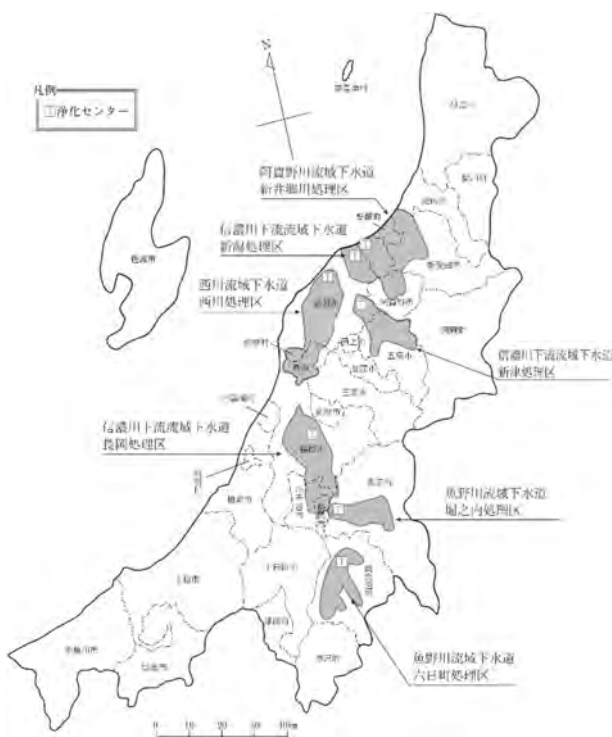


岩室 (第4) ポンプ場 (西川流域)



池ノ端MHポンプ盤 (阿賀野川流域)

● 本社・各支所・処理区の位置



- 本社(事務局) 新潟処理区
〒950-0003 新潟市東区下山3丁目680番地
新潟浄化センター内
- 新津支所 新津処理区
〒956-0817 新潟市秋葉区古田ノ内大野開2番地
新津浄化センター内
- 新井郷川支所 新井郷川処理区
〒950-3114 新潟市北区名目所1丁目167番地
新井郷川浄化センター内
- 西川支所 西川処理区
〒950-2123 新潟市西区笠木339番地
西川浄化センター内
- 長岡支所 長岡処理区
〒940-2471 長岡市上柳町257番地3
長岡浄化センター内
- 魚野川支所 六日町処理区・堀之内処理区
 - 六日町駐在所 (六日町処理区)
〒949-7101南魚沼市五日町1967番地5
六日町浄化センター内
 - 堀之内駐在所 (堀之内処理区)
〒949-7405魚沼市新道島364番地
堀之内浄化センター内

公社の沿革

- 昭和55(1980)年 10月 1日 新潟処理区供用開始
- 昭和56(1981)年 4月 1日 公社が財団法人として設立
- 昭和58(1983)年 4月 1日 新津支所設置(4月新津処理区供用開始)
- 昭和60(1985)年 4月 1日 長岡支所設置(6月長岡処理区供用開始)
- 平成 2(1990)年 4月 1日 六日町支所設置(8月六日町処理区供用開始)
- 平成 4(1992)年 4月 1日 堀之内支所設置(8月堀之内処理区供用開始)
- 平成 7(1995)年 4月 1日 国府川支所設置(7月国府川処理区供用開始)
- 平成10(1998)年 4月 1日 新井郷川支所設置(3月新井郷川処理区供用開始)
- 平成11(1999)年 4月 1日 公社職員の完全プロパー化
- 平成14(2002)年 4月 1日 西川支所設置(9月西川処理区供用開始)
- 平成15(2003)年 1月 15日 新潟市(旧新津市)し尿受入処理施設
運転監視業務受託
- 平成16(2004)年 10月 23日 中越大震災で長岡、堀之内処理区被災
- 平成20(2008)年 12月 1日 公社が特例民法法人に移行
- 平成21(2009)年 4月 1日 中越流泥処理センター運転開始
- 平成24(2012)年 4月 1日 公社が公益財団法人として再設立
- 平成26(2014)年 4月 1日 国府川処理区佐渡市公共下水道に移行(管理受託)
- 平成27(2015)年 3月 31日 国府川支所廃止(佐渡市からの管理受託終了)
- 平成30(2018)年 4月 1日 南魚沼市し尿受入処理施設運転監視業務受託
- 令和 5(2023)年 4月 1日 六日町支所と堀之内支所を統合し魚野川支所を設置
六日町駐在所、堀之内駐在所を設置



マンホールカード



オモテ



ウラ

平成29年12月から、県流域下水道マンホールカードを新潟浄化センターで配布しています。

流域下水道マスコットキャラクター



新潟県下水道シンボルマーク



下水道会社のシンボルマークは、水:WATERの「W」の図案化を基本とし、簡潔で、親しみやすい形態(かたち)にしました。

より多くの人々が水(特に下水道)について関心を持つ契機となることを願い、制定したものです。

公益財団法人 新潟県下水道公社

〒950-0003 新潟市東区下山3丁目680番地
新潟浄化センター内

Tel(025)271-1151(代)
Fax(025)271-1153

E-mail : singeko1@orion.ocn.ne.jp(総務課)
singeko9@drive.ocn.ne.jp(業務課)

HP <http://www.niigata-gesuikou.or.jp>

<https://x.com/gesuiniigata>

新潟県下水道公社は、新潟県から流域下水道運転管理を受託し、下水道課のご指導の下、業務を行っております。
浄化センターの維持管理のほか、県が実施する施設修繕・更新事業や、各種研究事業にも協力しています。
(新潟県 土木部 都市局 下水道課 HP <https://www.pref.niigata.lg.jp/site/gesuido>)